

都市再生整備計画 事後評価シート

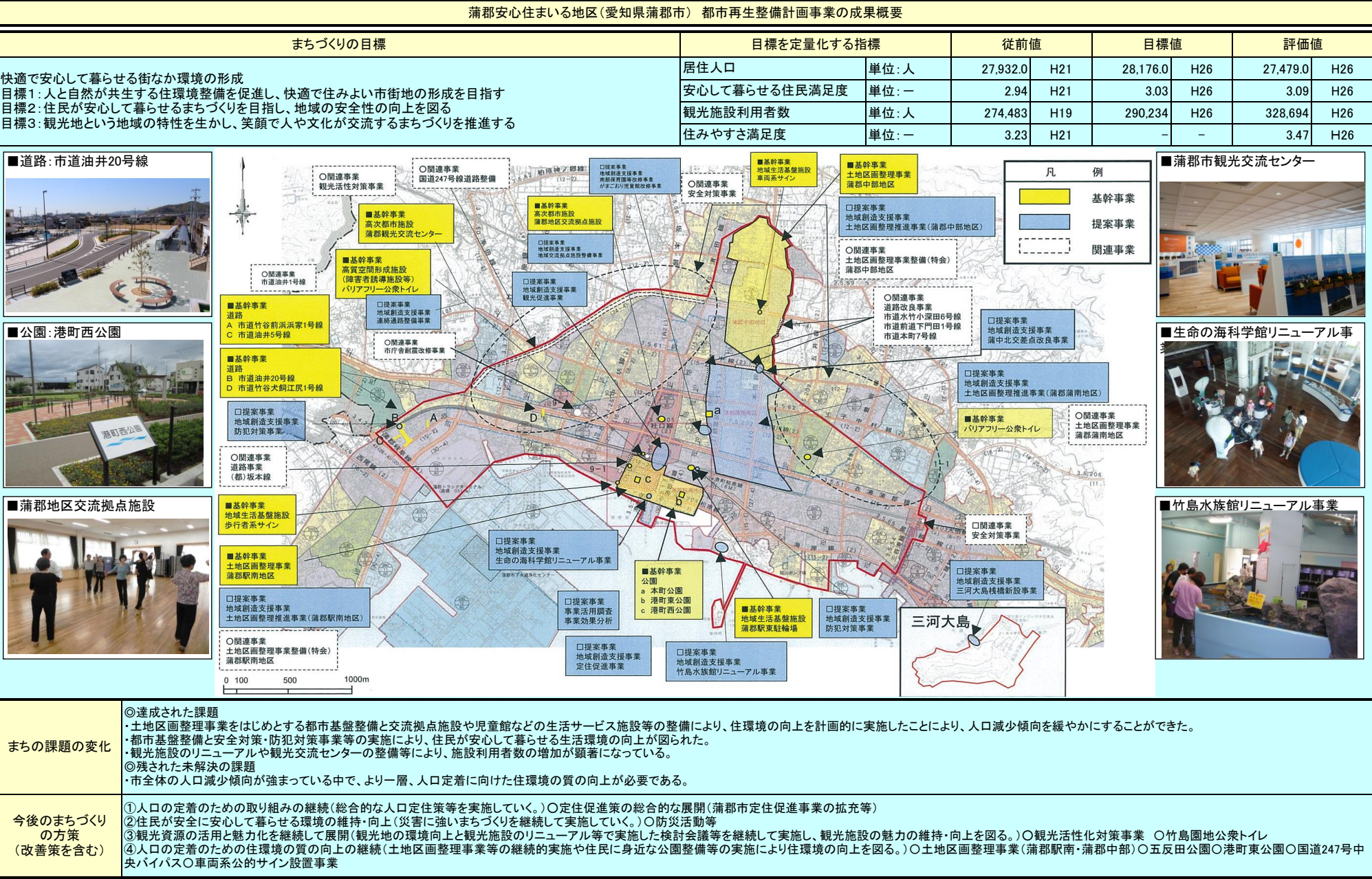
蒲郡安心住まいる地区

愛知県蒲郡市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県		市町村名	蒲郡市		地区名	蒲郡安心住まいる地区			面積	665ha		
交付期間	平成22年度～平成26年度		事後評価実施時期	平成26年度		交付対象事業費	5,729百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に 位置づけ、 実施した事業	基幹事業	(仮称)竹谷前浜浜家1号線、市道油井20号線、本町公園、港町2号公園、地域生活基盤施設、高質空間形成施設、高次都市施設、土地区画整理事業(蒲郡駅南・蒲郡中部)										
		提案事業	土地区画整理事業(蒲郡駅南・蒲郡中部)、防犯対策事業、三河大島栈橋新設事業、生命の海科学館リニューアル事業、観光促進事業、事業活用調査										
	当初計画 から 削除した 事業	基幹事業	事業名				削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		提案事業											
	新たに追加し た事業	基幹事業	①市道油井5号線、市道竹谷大飼江尻1号線 ②港町西公園、地域交流センター				①地元要望の高まり等に対応して事業を追加 ②土地区画整理事業等の事業進捗に応じて整備内容を充実			①指標2に影響があるが数値を変更するほどの影響はない。 ②指標1に影響があるが数値を変更するほどの影響はない。			
		提案事業	①竹島水族館リニューアル事業 ②南部保育園改修事業 ③がまごおり児童館改修事業 ④地域交流拠点整備事業 ⑤連絡通路整備事業 ⑥定住促進事業 ⑦蒲中北交差点改良事業				①市民要望(観光客要望)を踏まえ、施設建替え・改修事業を追加 ②がまごおり児童館と統合して建替え事業を行う ③南部保育園と統合して建替え事業を行う ④基幹事業と連携して追加 ⑤基幹事業で整備する施設へのアクセス道路の追加 ⑥社会実験の実施 ⑦関連事業から基幹事業への変更			①指標3に影響があるが数値を変更するほどの影響はない。 ②指標1に影響があるが数値を変更するほどの影響はない。 ③指標1に影響があるが数値を変更するほどの影響はない。 ④指標1に影響があるが数値を変更するほどの影響はない。 ⑤指標2に影響があるが数値を変更するほどの影響はない。 ⑥指標1に影響があるが数値を変更するほどの影響はない。 ⑦影響なし			
	交付期間 の変更	当 初	平成22年度～26年度		交付期間の変更による事業、 指標、数値目標への影響								
		変 更	平成 年度 ～ 年度										
2)都市再生整備計画 に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
	指標1	居住人口	人	27,932.0	H21	28,176.0	H26	モニタリング	評価値	△	あり なし	土地区画整理事業を中心とした都市基盤の整備と安全・安心まちづくりの推進および地域交流拠点整備等により、定住が促進される居住環境が整えられたが、市全体の人口減少の影響により、居住者数の増加には至らなかった。 居住者数は減少しているが、市全体および市内他区域と比較すると人口減少率は低く、定住効果が発揮されていると考えられる。	H.27.7
	指標2	安心して暮らせる住民満足度	—	2.94	H21	3.03	H26	117	3.09	○	あり なし	道路整備や土地区画整理事業の進捗や安全対策事業等の実施により、安全な交通・歩行者空間の充実が図られ、目標値を上回る安心して暮らせる満足度が実現している。	
	指標3	観光施設利用者数	人	274,483	H19	290,234	H26	252,645	328,694	○	あり なし	観光施設のリニューアル効果と観光関連施設およびソフト施策等の実施により、目標を大きく上回る観光施設利用者数の増加が実現している。	H.27.7
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
	その他の 数値指標1	住みやすさ満足度	—	3.23	H21				3.47			道路・公園などの基盤整備のほか、地域福祉・交流に関する施設の充実や定住促進、防犯対策等により、総合的な住環境の向上が図られ、住みやすさの満足度が着実に向上している。	
	その他の 数値指標2												
4)定性的な効果 発現状況	・安全安心なまちづくりに対する住民の関心が高まり、当初整備の予定をしていた三河三谷駅駐輪場の防犯カメラは、寄附行為になった。 ・地域住民の防災意識が向上し、本町公園の整備時に一部防災施設が備えられ、供用開始後の訓練には約40名の住民が参加した。												
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング		事業の進捗状況の確認や事業内容見直しの必要性等について議論する				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				継続して事業進捗・指標達成度を確認する。		
	住民参加 プロセス		調整池築造工事に伴う説明会の実施 【実施主体：区画整理課】				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				今後も継続して実施する。		
	持続的なまちづくり 体制の構築		①調整池築造工事に伴う説明会の実施【実施主体：区画整理課】 ②生命の海科学館見直し検討委員会【情報ネットワークセンター】 ③生命の海科学館実施計画策定委員会【情報ネットワークセンター】 ④「港町西公園」公園づくりワークショップ【都市計画課】				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				①今後も継続して実施する。 ②今後も継続して実施する。 ③今後も継続して実施する。 ④維持管理についての取り組みに発展する。		

様式2-2 地区の概要



都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3－① モニタリングの実施状況
- 添付様式3－② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5－① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5－② まちの課題の変化
- 添付様式5－③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他(区域の拡大)		●			

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	(仮称)竹谷前浜浜家1号線	147	L=80m W=7.5m	206	L=80m W=7.5m	事業費精査等による増額	影響なし。	●	
道路	市道油井20号線	221	L=150m W=21.0～37.0m	230	L=240m W=21.0～37.0m	地元住民の意向により市道油井20号線の 全線整備が可能となったため、計画道路の 延長を変更し、事業費の増加をする。	指標2安心して暮らせる住民満足度に影響があるが数値を変更するほどの影響 はない。	●	
道路	市道油井5号線			13	L=70m W=10.0 m	地元住民の意向により市道油井20号線の 全線整備が可能となったため、それに接道 する市道油井5号線(改良)も合わせて事 業の追加をする。	指標2安心して暮らせる住民満足度に影響があるが数値を変更するほどの影響 はない。	●	
道路	市道竹谷犬飼江尻1号線			9	L=80m W=6.0m	鉄道高架事業の一環として以前より整備 計画があった路線だが、地元要望の高まり と用地買収に目処が付いたため、追加す る。	指標2安心して暮らせる住民満足度に影響があるが数値を変更するほどの影響 はない。	●	
公園	本町公園	52	A=2,300㎡	44	A=2,300㎡	事業費精査等による減額	影響なし。	●	
公園	港町2号公園	101	A=1,300㎡	71	A=1,300㎡	事業費精査等による減額	影響なし。		●
公園	港町西公園			55	A=2,000㎡	土地区画整理事業による用地確保にあわ せて街区公園の整備を行うため、事業を追 加する。	指標1居住人口、指標2安心して暮らせる住民満足度に影響があるが数値を変更 するほどの影響はない。	●	
河川									
下水道									
駐車場有効利 用システム									
地域生活基盤 施設	自転車駐車場	34	A=1,268㎡	19	A=1,268㎡	事業費精査等による減額	影響なし。	●	
地域生活基盤 施設	情報版	6	2基	12	3基	県道247号線バイパスの開通に合わせ、車 両系案内板の設置事業を追加する。	指標3観光施設利用者客数に影響があるが数値を変更するほどの影響はない。	●	
高質空間形成 施設	蒲郡駅高架下 バリアフリー公衆トイレ	39	A=78㎡	32	2か所	関連事業から基幹事業への変更による箇 所数の増加と事業費精査による減額	影響なし。	●	
高次都市施設	蒲郡駅高架下 観光交流センター	140	A=314㎡	97	349.25㎡	実施設計後、床面積が変更となったため、 規模の変更をする。	指標3観光施設利用者客数に影響があるが数値を変更するほどの影響はない。	●	
高次都市施設	地域交流センター			178	793㎡	快適で住みよい住環境の一要素として、地 域住民の交流拠点施設を建設する。	指標1居住人口に影響があるが数値を変更するほどの影響はない。	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
既存建造物活用事業									
土地区画整理事業(都市再生)	蒲郡駅南	600	19.59ha	712	19.59ha	事業費精査等による減額	影響なし。		●
土地区画整理事業(都市再生)	蒲郡中部	1,300	53.31ha	2,943	53.31ha	土地区画整理事業の前倒しを行い、交付期間内に実施することにより事業効果の早期発現を図るため増額をする。	指標1居住人口、指標2安心して暮らせる住民満足度に影響があるが数値を変更するほどの影響はない。		●
市街地再開発事業									
住宅街区整備事業									
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	土地区画整理推進事業	340	125.1ha	393	125.1ha	事業費精査等による減額	影響なし。		●
	防犯対策事業	3	2ヶ所	7	2ヶ所	事業費精査等による減額	影響なし。	●	
	三河大島栈橋新設事業	100	1基	85	1基	事業費精査等による減額	影響なし。	●	
	生命の海科学館リニューアル事業	200	3281㎡	28	590.92㎡	生命の海科学館見直し検討委員会および生命の海科学館実施計画策定委員会の答申を受け、リニューアル対象面積を縮小。	指標3観光施設利用者客数に影響があるが既存施設の改修等であり、数値を変更するほどの影響はない。	●	
	観光促進事業	30	一式	30	一式	—	—		●
	竹島水族館リニューアル事業			43	—	観光促進のため、市民要望(観光客要望)を踏まえ、施設建替え・改修事業を追加。	指標3観光施設利用者客数に影響があるが既存施設の改修等であり、数値を変更するほどの影響はない。	●	
	南部保育園改修事業			302	A=1,600㎡	がまごおり児童館と統合して建替え事業を行う。	指標1居住人口に影響があるが数値を変更するほどの影響はない。	●	
	がまごおり児童館改修事業			160	A=500㎡	南部保育園と統合して建替え事業を行う。	指標1居住人口に影響があるが数値を変更するほどの影響はない。	●	
	地域交流拠点整備事業			18	—	蒲郡地区交流拠点施設建設事業の内、利用目的が限定される部分および共用部分について、実施設計費、建設費を按分して計上するため事業を追加する。	指標1居住人口に影響があるが数値を変更するほどの影響はない。	●	
	連絡通路整備事業			11	L=40.13m	蒲郡駅高架下にある駐輪場およびバリアフリー公衆トイレと駅のコンコースを結ぶ連絡通路を整備するため、事業を追加する。	指標1居住人口、指標2安心して暮らせる住民満足度に影響があるが数値を変更するほどの影響はない。	●	
	定住促進事業			6	—	社会実験としてプロモーション事業を展開し、より効果的な定住促進の手法を探るため、事業を追加する。	指標1居住人口に影響があるが数値を変更するほどの影響はない。		●
	蒲中北交差点改良事業			22	1箇所	関連事業から基幹事業への変更	影響なし。		●
事業活用調査	事業効果分析	1	655ha	3	655ha				
まちづくり 活動推進事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
道路築造事業		国道247号	3,000	3,000	H.21～H.24	H.21～H.24	区域内は計画通り進捗 全線事業期間の変更 H21～H29	
道路改良事業		国道473号	9		H.25～H.25		提案事業「蒲中北交差点改良事業」に変更して実施	
道路改良事業		市道前道下門田1号線	5	5	H.13～H.22	H.25～H.25	計画通り進捗	
道路改良事業		都市計画道路 坂本線	17	17	H.13～H.23	H.26～H.26	計画通り進捗	
道路改良事業		市道本町7号線	11	11	H.13～H.24	H.24～H.24	計画通り進捗	
道路改良事業		市道水竹小深井田6号線	10	10	H.13～H.25	H.23～H.23	計画通り進捗	
道路築造事業		市道油井20号線	80		H.21～H.22		基幹事業 道路「市道油井20号線」 に変更して実施	
道路改良事業		市道油井1号線		1		H.24～H.24	計画通り進捗	
土地区画整理事業(特会)		蒲郡駅南	15,286	6,542	S.63～H.22	S.63～H.30	計画通り進捗	
土地区画整理事業(特会)		蒲郡中部	19,979	2,685	S.62～H.29	S.62～H.29	計画通り進捗	
土地区画整理事業(特会)		蒲郡蒲南	15,838		S.44～H.26		計画通り進捗	
安全対策事業		—	200	200	H.22～H.26	H.22～H.26	計画通り進捗	
観光活性化対策事業		—	15	15	H.22～H.26	H.22～H.26	提案事業「竹島水族館リニューアル事業」に変更して実施	
駐輪場整備事業		三河塩津駅周辺	85		H.24～H.26		基幹事業 道路「市道油井20号線」 に変更して実施	
公衆トイレ改修事業		—		5		H.25～H.26	基幹事業 高質空間形成施設に変更して実施	
市庁舎耐震改修事業		市庁舎		298		H.25～H.26	計画通り進捗	

添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
		単位			基準 年度		基準 年度		目標 年度						あり	なし
指標1	居住人口	人	4月1日発表の「住民基本台帳人口 集計町字別世帯数・人口表(3月31 日時点)から地区内の日本人およ び外国人人口を抽出する。			27,932	H21	28,176	H26	モニタリング	H24	27,908	モニタリング	△		●
										事後評価	確定 見込み	●	27,479	事後評価		
指標2	安心して暮らせる住民満 足度	－	住民アンケートの内、安全に関 する項目の平均値			2.94	H21	3.03	H26	モニタリング	H24	2.82	モニタリング	×		
										事後評価	確定 見込み	●	3.09	事後評価		
指標3	観光施設利用者数	人	地区内の観光施設6箇所の年 間入場者数			274,483	H19	290,234	H26	モニタリング	H23	252,645	モニタリング	×		
										事後評価	確定 見込み	●	328,694	事後評価		
指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)								その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)							
指標1	平成21年以降、市全体の人口減少(自然減に対して社会増が少ない状況)が顕著になり、本事業実施による定住促進効果よりも人口減少の影響が大きくなった。なお、市全体の人口減少が生じていなければ、実質的に他地区に比べて2%程度の人口増加(人口減少の抑制)が見込めており、従前値に対して2%程度の人口増加により、目標値を達成していたと考えられる。なお、現状の市全体の人口減少傾向が継続している中での目標値達成は難しく、1年以内の達成見込みは無いと判断する。								人口増減は本事業以外の影響も受けることから、市全体や市内の本事業区域以外の人口増減を相対的に比較することにより評価する方法等が望まれる。							
指標2	住民満足度はモニタリング時では従前値を下回る状況にあったが、事業進捗に応じて順調に満足度は向上し、目標値を上回る満足度を実現している。								事業途中では、工事期間中の環境変化等も影響し、満足度が低下する可能性がある。							
指標3	観光施設利用者数は本事業開始直後は減少傾向にあったが、整備完了とともに増加に転じ、目標値を上回る観光施設利用者数を実現している。															

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。
※2 目標達成度の記入方法
○:評価値が目標値を上回った場合
△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
その他の 数値指標1	住みやすさ満足度	－	住民アンケートの内、住みやす さに関する項目の平均値			3.23	H21	モニタリング	H24		定住促進効果を住民の満足度 で計測し、指標1の居住人口に 対する効果を補完する。	
								事後評価	確定 見込み	●		
										3.47		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・安全安心なまちづくりに対する住民の関心が高まり、当初整備の予定をしていた三河三谷駅駐輪場の防犯カメラは、寄附行為になった。
・地域住民の防災意識が向上し、本町公園の整備時に一部防災施設が備えられ、供用開始後の訓練には約40名の住民が参加した。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3ー① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
事業の進捗状況の確認や事業内容見直しの必要性等について議論する	予定どおり実施した	● 【実施時期】平成24年度 【実施結果】モニタリングシートの様式に基づいてモニタリングを実施。 事業内容の見直しや達成指標の達成度確認等に反映。	継続して事業進捗・指標達成度を確認する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3ー② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
調整池築造工事に伴う説明会の実施 【実施主体：区画整理課】	予定どおり実施した	● 【実施頻度】1回 計10名参加(参加対象40世帯) 【実施時期】平成24年1月24日(火)18:30 水竹町会館 【実施結果】調整池築造に対する住民の理解。協力を得る。	今後も継続して実施する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
生命の海科学館見直し検討委員会 【情報ネットワークセンター】	予定どおり実施した	● 【実施頻度】5回 市民・有識者など12名からなる検討委員会 【実施時期】平成20年5月23日～平成20年12月17日 【実施結果】加田区間のソフト面・ハード面での指針を提言。	今後も継続して実施する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
生命の海科学館実施計画策定委員会 【情報ネットワークセンター】	予定どおり実施した	● 【実施頻度】6回 有識者など7名からなる検討委員 【実施時期】平成21年6月10日～平成21年12月11日 【実施結果】市民参画による計画内容の見直し・実施設計への反映などの実施。	今後も継続して実施する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
「港町西公園」公園づくりワークショップ 【都市計画課】	予定どおり実施した	● 【実施頻度】月1回程度 3回開催 【実施時期】平成24年9月、10月、11月 【実施結果】地域住民の意見やアイデアを実際の公園設計に反映。	維持管理についての取り組みに発展する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況		実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
			i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
蒲郡市観光ビジョン運営委員会 【商工観光課】	予定どおり実施した	●	観光交流ウィーク・シティドレッシング・おもてなし教育事業・観光交流活動補助事業・観光アクションプラン事業	蒲郡市観光ビジョン運営委員会：従来の「観光都市・蒲郡」を支えてきた観光業界のみならず、各種産業界、市議会・教育委員会、行政、市民団体を含めたオール蒲郡市民による総合力で、新たな「観光交流都市」を育てている。	観光交流ウィーク・シティドレッシング・おもてなし教育事業・観光交流活動補助事業・観光アクションプラン事業を継続して推進する。
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった (理由)				
蒲郡市公共施設里親制度(アダプトプログラム)の実施	予定どおり実施した		月に1回程度、公園の清掃、草刈り等を実施	蒲郡栄宝会本町公園見守り隊：老人クラブの有志(H21ワークショップの参加者含む)	高齢者が多いため、グラウンドゴルフ等のレクリエーションを行いながら清掃活動を継続して実施する。
	予定はなかったが実施した	●			
	予定したが実施できなかった (理由)				
本町公園で自主防災訓練の実施	予定どおり実施した		約40名の市民が参加。 かまどベンチを利用した炊き出し訓練や防災シェルターのテント設営訓練を実施した。	東町町内会及び自主防災会 (H21ワークショップの参加者含む)	災害時だけでなく定期的に自主防災訓練を行って、地域コミュニティの場として公園を利用する。
	予定はなかったが実施した	●			
	予定したが実施できなかった (理由)				

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4ー① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
蒲郡市都市再生整備計画事業推進会議	企画広報課、財務課、安全安心課、情報ネットワークセンター、都市計画課、区画整理課、土木港湾課、道路建設課、観光商工課、児童課、文化スポーツ課	平成26年8月20日	財務課(都市再生整備計画事業事後評価主管課)

添付様式4ー② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2		指標3		その他指標1			
指 標 名		安心して暮らせる住民満足度		観光施設利用者数		住みやすさ満足度			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路：市道竹谷前浜浜家1号線	◎	道路整備や土地区画整理事業の進捗や安全対策事業等の実施により、安全な交通・歩行者空間の充実が図られ、目標値を上回る安心して暮らせる満足度が実現している。	—	観光施設のリニューアル効果と観光関連施設およびソフト施策等の実施により、目標を大きく上回る観光施設利用者数の増加が実現している。	◎	道路・公園などの基盤整備のほか、地域福祉・交流に関する施設の充実や定住促進、防犯対策等により、総合的な住環境の向上が図られ、住みやすさの満足度が着実に向上している。		
	道路：市道油井20号線	◎		—		◎			
	道路：市道油井5号線	◎		—		◎			
	道路：市道竹谷大納江房1号線	◎		—		◎			
	公園：本町公園	◎		—		◎			
	公園：港町東公園	◎		—		◎			
	公園：港町西公園	◎		—		◎			
	地域生活基盤施設(自転車駐車場)	◎		◎		◎			
	地域生活基盤施設(情報板)	◎		◎		◎			
	高質空間形成施設(障害者誘導施設等)バリアフリー公衆トイレ	◎		◎		◎			
	高次都市施設(地域交流センター)	—		◎		◎			
	高次都市施設(観光交流センター)	—		◎		◎			
	土地区画整理事業：蒲郡駅南	◎		◎		◎			
提案事業	土地区画整理事業：蒲郡中部	◎		◎		◎			
	地域創造支援事業：土地区画整理推進事業	◎		◎		◎			
	地域創造支援事業：防犯対策事業	◎		—		◎			
	地域創造支援事業：三河大島棧橋新設事業	◎		◎		◎			
	地域創造支援事業：生節の海科子館リニューアル事業	—		◎		—			
	地域創造支援事業：観光促進事業	—		◎		—			
	地域創造支援事業：竹島水族館リニューアル事業	—		◎		—			
	地域創造支援事業：南部保育園改修事業	—		—		◎			
	地域創造支援事業：がまごおり児童館改修事業	—		—		◎			
	地域創造支援事業：地域交流拠点整備事業	◎		◎		◎			
	地域創造支援事業：連絡道路整備事業	◎		—		◎			
	地域創造支援事業：定住促進事業	—		—		◎			
	地域創造支援事業：蒲中北交差点改良事業	◎		—		◎			
関連事業	事業活用調査：事業評価分析	◎		◎		◎			
	道路築造事業：国道247号	◎		◎		◎			
	道路改良事業：市道前道下門田1号線	◎		◎		◎			
	道路改良事業：都市計画道路：坂本線	◎		◎		◎			
	道路改良事業：市道本町7号線	◎		—		◎			
	道路改良事業：市道水竹小深井6号線	◎		◎		◎			
	道路改良事業：市道油井1号線	◎		—		◎			
	土地区画整理事業(特委)：蒲郡駅南	◎		◎		◎			
	土地区画整理事業(特委)：蒲郡中部	◎		◎		◎			
	安全対策事業	—		—		◎			
	観光活性化対策事業	—		◎		—			
	公衆トイレ改修事業	—		◎		—			
	市庁舎耐震改修事業	—		—		◎			

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
—：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	土地区画整理事業の推進を計画的に図りながら、交通安全対策や防犯および防災対策等を継続して実施していく。	観光施設利用者数の維持・増加と観光客数の安定した増加を図るために、環境整備と観光PR等の継続的な実施を図る。 観光施設の魅力化のための検討組織の取組みの継続・充実を図る。	土地区画整理事業の推進を計画的に図りながら、「住みたいまち」を実現するハード・ソフト事業を交えた複合的な取組みを継続して実施する。
-------	---	--	---

添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1											
指 標 名		居住者数											
種別	事業名・箇所名	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類
基幹事業	道路：市道竹谷前浜浜家1号線	△	土地区画整理事業を中心とした都市基盤の整備と安全・安心まちづくりの推進および地域交流拠点整備等により、定住が促進される居住環境が整えられたが、市全体の人口減少の影響により、居住者数の増加には至らなかった。	Ⅲ									
	道路：市道油井20号線	△											
	道路：市道油井5号線	△											
	道路：市道竹谷大前江尻1号線	△											
	公園：本町公園	△											
	公園：港町東公園	△											
	公園：港町西公園	△											
	地域生活基盤施設（自転車駐車場）	△											
	地域生活基盤施設（情報板）	△											
	高質空間形成施設（障害者誘導施設等）バリアフリー公衆トイレ	△											
	高次都市施設（地域交流センター）	△											
	高次都市施設（観光交流センター）	△											
提案事業	土地区画整理事業：浦郡駅前	△	土地区画整理事業の推進を計画的に図りながら、「住みたいまち」を実現するハード・ソフト事業を交えた複合的な取り組みを継続して実施する。また、市全域の定住促進施策を進める。	Ⅲ									
	土地区画整理事業：浦郡中部	△											
	地域創造支援事業：土地区画整理推進事業	△											
	地域創造支援事業：防犯対策事業	△											
	地域創造支援事業：三河大島棧橋新設事業	△											
	地域創造支援事業：生命の海科学館リニューアル事業	△											
	地域創造支援事業：観光促進事業	△											
	地域創造支援事業：竹島水族館リニューアル事業	△											
	地域創造支援事業：南部保育園改修事業	△											
	地域創造支援事業：かまこおり児童館改修事業	△											
	地域創造支援事業：地域交流拠点整備事業	△											
	地域創造支援事業：連絡道路整備事業	△											
地域創造支援事業：定住促進事業	△												
地域創造支援事業：浦中北交差点改良事業	△												
関連事業	事業活用調査：事業評価分析	△											
	道路築造事業：国道247号	△											
	道路改良事業：市道前道下門田1号線	△											
	道路改良事業：都市計画道路 坂本線	△											
	道路改良事業：市道本町7号線	△											
	道路改良事業：市道水竹小深田6号線	△											
	道路改良事業：市道油井1号線	△											
	土地区画整理事業（特設）：浦郡駅前	△											
	土地区画整理事業（特設）：浦郡中部	△											
	安全対策事業	△											
	観光活性化対策事業	△											
	公衆トイレ改修事業	△											
市庁舎耐震改修事業	△												
※目標未達成への影響度 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。 －：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。													
※要因の分類 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。													
改善の方針 （記入は必須）		土地区画整理事業の推進を計画的に図りながら、「住みたいまち」を実現するハード・ソフト事業を交えた複合的な取り組みを継続して実施する。また、市全域の定住促進施策を進める。											

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
蒲郡市都市再生整備計画事業推進会議	企画広報課、財務課、安全安心課、情報ネットワークセンター、都市計画課、区画整理課、土木港湾課、道路建設課、観光商工課、児童課、文化スポーツ課	平成26年8月20日 平成27年2月6日	財務課(都市再生整備計画事業事後評価主管課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
・市の人口減少を歯止めするため、人口の定着に向け地区内の住環境の質の向上を図る必要がある	土地区画整理事業をはじめとする都市基盤整備と交流拠点施設や児童館などの生活サービス施設等の整備により、住環境の向上を計画的に実施したことにより、人口減少傾向を緩やかにすることができた。	市全体の人口減少傾向が強まっている中で、より一層、人口定着に向けた住環境の質の向上が必要である。	特になし
・地区内の安全を確保し、住民が安心して暮らせるまちづくりを推進する必要がある	都市基盤整備と安全対策・防犯対策事業等の実施により、住民が安心して暮らせる生活環境の向上が図られた。	特になし	
・観光資源を活用し市外からの来訪者数の維持、交流人口の増加を図る必要がある	観光施設のリニューアルや観光交流センターの整備等により、施設利用者数の増加が顕著になっている。	特になし	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5ー③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	人口の定着のための取り組みの継続	総合的な人口定住策等を実施していく。	○定住促進事業
	住民が安全に安心して暮らせる環境の維持・向上	災害に強いまちづくりを継続して実施していく。	○防災活動等
	観光資源の活用と魅力化を継続して展開	観光地の環境向上を継続して実施し、観光施設の魅力の維持・向上を図る。	○観光活性化事業 ○竹島園地公衆トイレ

B欄 改 善 策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	人口の定着のための住環境の質の向上の継続	土地区画整理事業等の継続的实施や住民に身近な公園整備等の実施により住環境の向上を図る。	○土地区画整理事業（蒲郡駅南・蒲郡中部） ○土地区画整理事業（蒲郡蒲南） ○五反田公園・港町東公園 ○国道247号中央バイパス ○車両系公的サイン設置事業
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5ー③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。（チェック欄）

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題（都市再生整備計画）を再確認した。
●	事業の実施過程の評価（添付様式3）を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用（添付様式4ー②）を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針（添付様式4ー③）を再確認した。
●	残された課題や新たな課題（添付様式5ー②）を再確認した。

添付様式5ー参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

- ・観光交流センターの効果的な活用と市全体の観光振興策の充実を図る必要がある。
- ・リニューアル事業を実施した生命の海科学館および竹島水族館について、より一層の利用促進を図るための方策（外壁改修・料金の見直し等）を検討していく必要がある。

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度		年度							予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	居住人口	人	27,932.0	H21	28,176.0	H26	確定		27,479	△	あり	H.27.7	4月1日発表の「住民基本台帳人口集計町字別世帯数・人口表(3月31日時点)」から地区内の日本人および外国人人口を抽出する。	次期計画においても継続して計測する。
							見込み	●			なし			
指標2	安心して暮らせる住民満足度	—	2.94	H21	3.03	H26	確定	●	3.09	○	あり			次期計画においても参考指標として継続的に計測する。
							見込み				なし			
指標3	観光施設利用者数	人	274,483	H19	290,234	H26	確定		328,694	○	あり	H.27.7	地区内の観光施設6箇所の年間入場者数	次期計画においても参考指標として継続的に計測する。
							見込み	●			なし			
指標4											あり			
											なし			
指標5							確定				あり			
							見込み				なし			
その他の数値指標1	住みやすさ満足度	—	3.23	H21			確定	●	3.47					次期計画においても継続して計測する。
							見込み							
その他の数値指標2							確定							
							見込み							
その他の数値指標3							確定							
							見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・観光施設の魅力向上するハード整備を機に、各施設が多様なイベントやソフト事業を展開し、利用客の満足向上に努めた結果、施設利用客数の増加、リピーターの増加が見られ、各施設の相乗効果をもたらす結果となった。	・毎年データを入手できる指標を選定すると、交付期間中のモニタリングが容易である。 ・事後評価を見据え、指標の算出根拠や目標設定根拠を整理し、記録することが重要である。
	うまくいかなかった点	・地区内の定住について、計画期間内は社会減(市外転出、地区外転居)に歯止めが掛かったが、自然減の加速に対抗するまでに至らなかった。また、目標値設定時に自然減による定住人口への影響を読みきれなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・ハード、ソフト事業を組み合わせ、市の特性を踏まえたまちづくりを実施し、成果をあげることができた。	・指標のデータの計測手法は、事業の効果と密接に結びついているため、各データの特性を十分把握することが大切である。
	うまくいかなかった点	・モニタリングにおいて、安心して暮らせる住民満足度の評価が下がったのは、東日本大震災直後に行ったためである。この時、住民の関心が防犯対策から防災・減災対策へ移行し、かつ防災関連事業への重要度が急激に高まったが、対応できる事業を計画に盛り込むことができなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・住民と対話することで、事業に対する理解が深まり、事業の前倒し等が可能となったため、当初計画の一部を見直し、まちづくりの進捗が図られた。	・住民参加は事業を円滑に進めるのに重要である。また、こうした対話から住民のニーズを事業に反映していく場としても有効である。
	うまくいかなかった点	・住民主催のまちづくり協議会等にまで発展することができなかった。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・道路等ハードの整備事業だけでなくソフト事業を盛り込み、蒲郡市の特徴を生かしたまちづくりの計画を立て、事業を進めることができた。また評価をすることで、市の課題を認識することができた。	・モニタリングの実施により、事業の進捗状況や目標達成状況を把握し、必要に応じて計画を見直すことが重要である。
	うまくいかなかった点	・モニタリング時に、定住人口の目標値達成見込みが難しいことが判明したが、計画の残期間(2ヵ年)で効果の高い対策事業を行うことが難しい。	
その他	うまくいった点	・事業が市の複数の部局間にまたがっていたが、事業に対する高い意識と情報共有により、十分な連携ができた。	・事業に関連する部局間で、事業の進捗管理、事業の追加・削除などの計画変更、指標に関するデータの入手、指標の達成状況の把握など情報等の共有が必要。
	うまくいかなかった点	・事業の進捗に関し、部局間での情報交換が遅くなる傾向があった。	

添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

蒲郡快適安心地区(H27～31)を予定している。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市ホームページに原案を掲載	平成26年9月16日～30日	平成26年9月16日～30日	財務課を受付窓口とし、意見書・あいち電子申請届出システム・ファックスによる意見を受け付ける。	財務課
広報掲載・回覧・個別配布	市広報誌に閲覧方法およびホームページへの掲載について周知記事を掲載	広報 平成26年9月号	平成26年9月16日～30日		
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見	なし
-------	----

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	宇野新太郎(愛知工科大学工学部教授)	第1回:平成26年10月15日 第2回:平成26年10月28日	財務課	蒲郡市都市再生整備計画評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	市川美奈子 近藤 二吉				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適切に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・適切かつ客観的に実施されたことが確認された。
	実施過程の評価	・モニタリングの実施状況、住民参加プロセスの実施状況、継続的なまちづくり体制の構築状況は適切であると確認された。
	効果発現要因の整理	・適切かつ客観的に実施されたことが確認された。 ・指標3:観光施設利用者数の効果発現は適切であるが、市全体の観光振興に至っていない点が課題として指摘された。
	事後評価原案の公表の妥当性	・適切かつ客観的に実施されたことが確認された。 ・最終公表においては、より分かりやすく、親しみやすい表現で公表すべきという意見を頂いた。
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であることが確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・整備した各施設のより一層の有効利用を図るための方策について、検討していくべきであるという意見を頂いた。
	フォローアップ	・記載された内容が適切であることが確認された。
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他		・特になし

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
なし		

有識者の意見	なし
--------	----